

オンスイクの注射日と投与量を記入しましょう。

1目盛は5単位に相当します。

	注射する日			投与量(目盛)	
1回目	月	日	(曜日)	単位	(目盛)
2回目	月	日	(曜日)	単位	(目盛)
3回目	月	日	(曜日)	単位	(目盛)
4回目	月	日	(曜日)	単位	(目盛)
5回目	月	日	(曜日)	単位	(目盛)
6回目	月	日	(曜日)	単位	(目盛)
7回目	月	日	(曜日)	単位	(目盛)
8回目	月	日	(曜日)	単位	(目盛)
9回目	月	日	(曜日)	単位	(目盛)
10回目	月	日	(曜日)	単位	(目盛)
11回目	月	日	(曜日)	単位	(目盛)
12回目	月	日	(曜日)	単位	(目盛)
13回目	月	日	(曜日)	単位	(目盛)

- オンスイクは週1回投与するお薬です。毎週同じ曜日に注射しましょう。
- オンスイクの投与を開始する際には、1～3回目の単位数を主治医に確認のうえ、あらかじめ記入してください。
- 初回注射の単位数が増量されることがあります。
初回に増量した場合は、2回目以降も同じ量を続けられないように注意してください。

日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口 (一般の方・患者様向け)
0120-245-970※1 / 078-242-3499※2

<当社製品に関するお問い合わせ>

受付時間 月曜日～金曜日 8:45～17:30※3

<当社注入器に関するお問い合わせ>

受付時間 月曜日～土曜日 8:45～22:00

※1 通話料は無料です。携帯電話からでもご利用いただけます。尚、IP電話からはフリーダイヤルをご利用できない場合があります。

※2 フリーダイヤルでの接続が出来ない場合、このお電話番号にお掛けください。尚、通話料はお客様負担となります。

※3 祝祭日および当社休日を除きます。

日本イーライリリー株式会社

OSW-N002(R0) 2026年9月作成

オンスイク®注ミリオペン®を 使用される患者さんへ

【監修】

朝倉 俊成 先生 新潟薬科大学 薬学部 臨床薬学教育研究センター 教授



Lilly
A MEDICINE COMPANY

オンスイクご使用のポイント

このページでは、オンスイクを安全にお使いいただくための大切なポイントをまとめています。
詳しい使い方や注意点については、各ページを必ずお読みください。

1 注射の前にラベルを確認

詳しくはP.10へ ▶

オンスイクは、**週に1回**投与するインスリンのお薬です
注射の前に**ラベルの表示を確認**してください
オンスイクと他のお薬を間違えないようにご注意ください

週1回投与

この表示は、用法を示し、
「**1週間に1回**投与するお薬」で
あることをあらわしています。

オンスイク®注ミリオペン®
総量1500単位

製品名が「オンスイク®注ミリオペン®」で
あることを確認してください。



1目盛5単位

この表示は、単位合わせダイヤルの**1目盛が5単位**に
相当することをあらわしています。

2 1クリック(1目盛)が5単位

詳しくはP.11へ ▶

オンスイクの単位設定ボタン(注入ボタン)を回すと1クリック
(1目盛)毎に「カチッ」と音がし、**1クリック(1目盛)が5単位**に
相当します

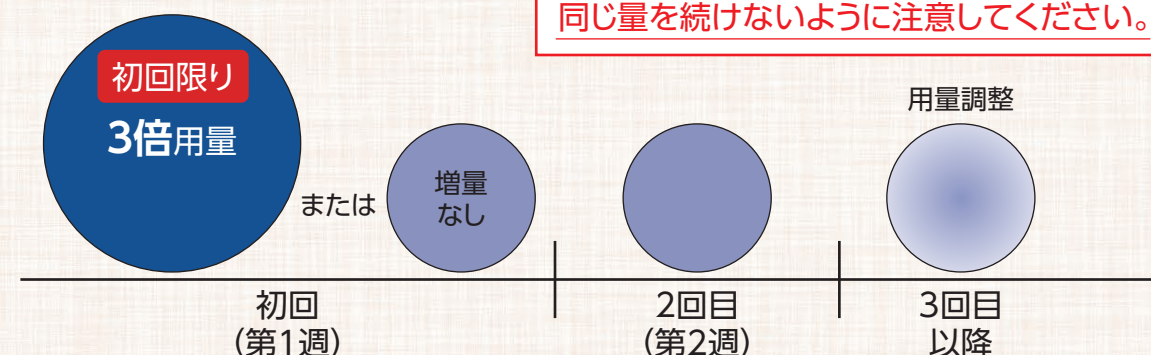
投与量を間違えないために、音だけで判断せず
必ず**ダイヤル表示を確認**しながら単位数を合わせてください

3 投与量

詳しくはP.12へ ▶

血中インスリン濃度を早く安定させるため
通常、**初回に限り3倍用量**で投与しますが、
患者さんの状態により変更する場合があります

初回に増量した場合は、2回目以降も
同じ量を続けないように注意してください。



※投与量は効果や体調に応じて調整されます。必ず主治医の指示に従ってください。

4 保管方法

詳しくはP.13へ ▶

使用開始前、使用開始後ともに**冷蔵庫(2~8℃)**に保管し、
凍結させないでください
高温や直射日光を避けてください

5 低血糖の対処法

詳しくはP.14-15へ ▶

オンスイクの副作用として**低血糖があらわれる**ことがあります
低血糖の症状があらわれたら、**すぐに糖分をとってください**
症状が良くならない場合や、糖分を口からとることができない
場合には、**すぐに医療機関に連絡して処置を受けてください**

オンスイクをはじめるあなたへ

あなたらしい毎日を、これからも大切にするために。

インスリン治療は、血糖値を整え、
将来の合併症を防ぐための大切な治療です。

はじめて注射を行う方も、
これまでの注射から切り替える方も、
感じる思いや不安はそれぞれ違うと思います。

けれど、その一步は、
これからの生活をよりあなたらしく過ごす
ための前向きな選択です。

この冊子では、オンスイクによる週1回の
インスリン治療の基本や使い方について、
わかりやすくご紹介しています。

この冊子が、治療への理解を深め、
ご自身に合った一步を踏み出すための
お役に立てば幸いです。



安全にお使いいただくために

- オンスイクは**2型糖尿病の方を対象とした**治療薬です。1型糖尿病の方には使用できません。
- 妊娠中、妊娠の可能性がある場合、または授乳中の方は、使用を避けてください。妊娠の可能性がある場合、授乳中の方は医師・薬剤師に相談してください。

使用できません



1型糖尿病

使用できます



2型糖尿病

目次

オンスイクご使用のポイント RMP	2
オンスイクをはじめるあなたへ	4
オンスイクとは	6
投与方法	7
投与を忘れたときは?	7
主な毎日投与の基礎インスリンとの違い	8
注射前の準備と注射する場所	9
オンスイクの使い方 RMP	10
投与量と切り替え方法 RMP	12
保管と取り扱い方法	13
廃棄方法	13
低血糖とその対処法 RMP	14
シックデイについて	16

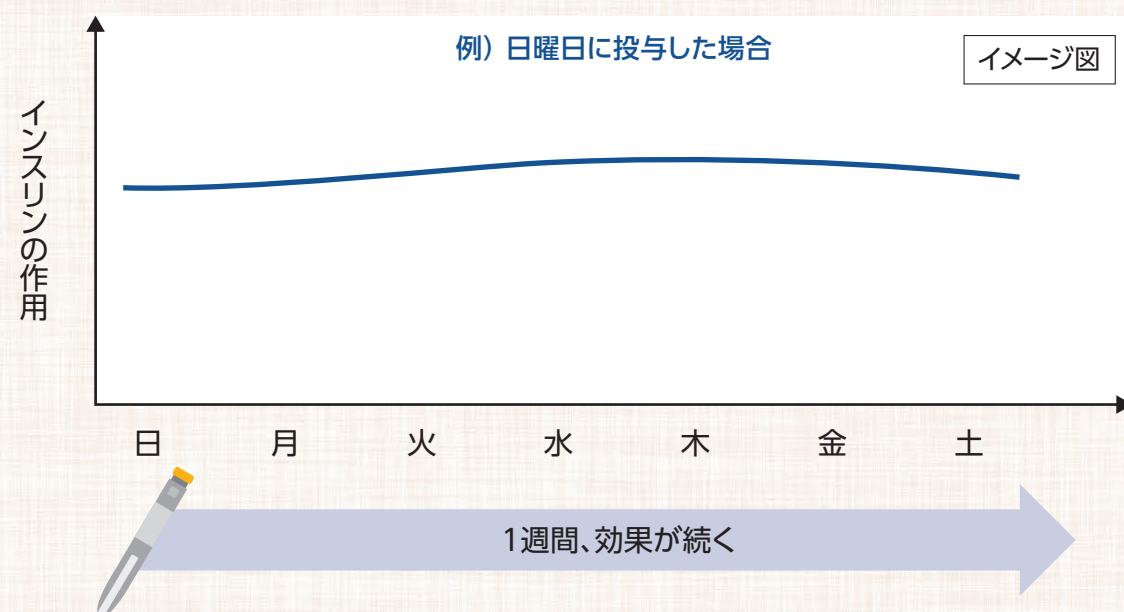
本資材は、医薬品リスク管理計画に基づく内容を含む資材であり、
追加のリスク最小化活動に基づく内容に該当する箇所にマークを付与しています。

オンスイクとは

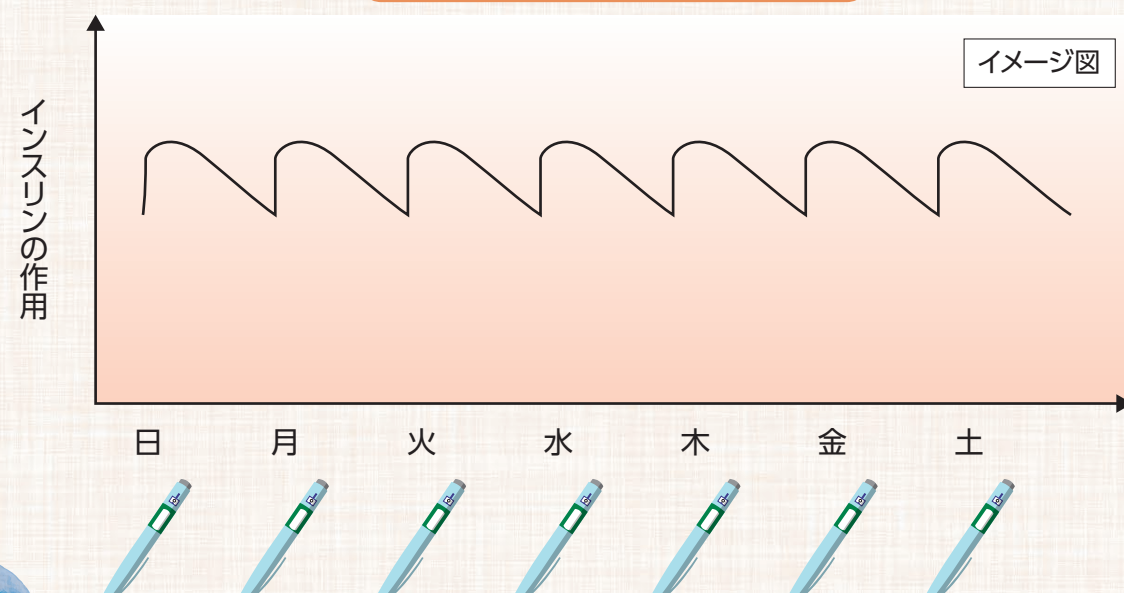
オンスイクは、**週に1回**投与するインスリンのお薬です

ゆっくりと長く作用するため、1回の注射で約1週間、血糖値を下げる効果が続きます。

オンスイクの作用



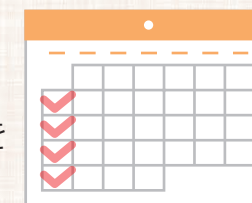
1日1回投与のインスリンの作用



投与方法

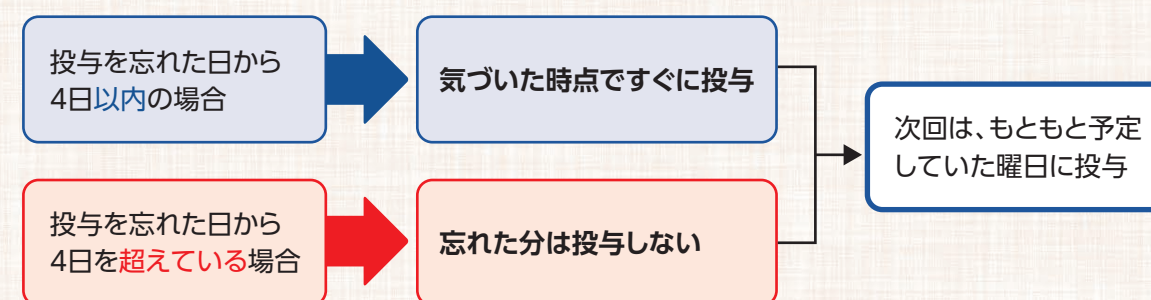
週に1回、**毎週同じ曜日**に皮下注射します

他のお薬と間違えないよう、注射の前は必ずお薬の名前を確認してください。



投与を忘れたときは?

気づいたタイミングによって、対応が異なります



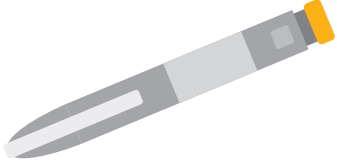
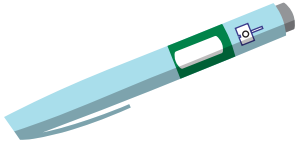
※忘れた分を次回にまとめて投与しないでください

例) 毎週日曜日に投与している場合



主な毎日投与の基礎インスリンとの違い

主な毎日投与の基礎インスリンとは、
1クリック（1目盛）の単位数、注射タイミング、濃度、
空打ちの単位数が異なります

	オンスイク	主な毎日投与の 基礎インスリン
		
1クリック （1目盛）	5単位	1単位
注射タイミング	週1回	1日1回
濃度	500単位/mL	100単位/mL
空打ち	1クリック （1目盛=5単位）	主に2クリック （2目盛=2単位）

注射前の準備と注射する場所

清潔にお取り扱いください

注射の前には必ず手を洗いましょう。

毎回「空打ち」を行ってください

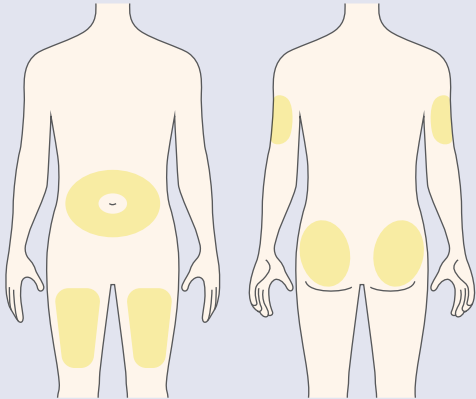
注射の前は空打ちを行い、針先から薬液が出ることを確認してください。

注射する場所を毎回消毒してください

注射する場所を消毒用アルコール綿で消毒し、よく乾かしてから注射してください。

注射する場所

お腹、太もも、上腕またはお尻に注射します。
注射する場所は毎回変えてください。
同じ部位に注射する場合は、前回注射した場所より2～3cm離して注射してください。



オンスイクの使い方

注射の前にラベルの表示を確認してください
(オンスイクと他のお薬を間違えないようにご注意ください)

劇
オンスイク®注ミリオペン®
総量1500単位

製品名が「オンスイク®注ミリオペン®」であることを
確認してください。
未使用時の薬液の総量は1500単位です。

複数のインスリン製品を使用している場合は、取り違えないように注意してください。

週1回投与

この表示は、用法を示し、
「1週間に1回投与するお薬」であることをあらわしています。

持効
この表示は、製剤区分マークで、
持効型インスリン製剤の仲間であることを
あらわしています。



1目盛5単位

この表示は、単位合わせダイヤルの1目盛が5単位に
相当することをあらわしています。

濃度 500 単位/mL

この表示は、薬液1mL中に500単位が含まれているという薬液の
濃度をあらわしています。

製剤区分マーク

種類・薬効による分類を示すマークで、それぞれ以下製剤の仲間であることを示しています。

超速効型インスリン製剤



持効型インスリン製剤

持効

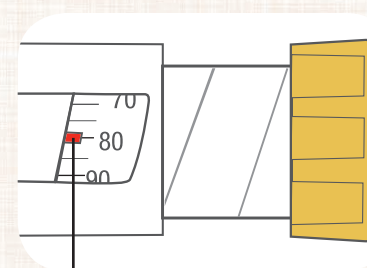
GLP-1受容体作動薬



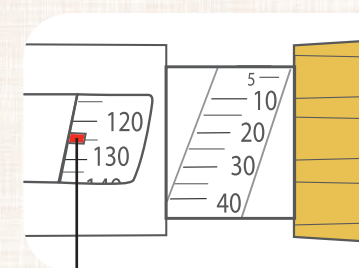
製剤区分マークは、日本糖尿病協会 糖尿病医薬品・医療機器等適正化委員会にて検討・評価されて制定されました^{1)~3)}。
1)くすりとうる病 5(1)77-83(2016) 2)くすりとうる病 5(2)200-205(2016) 3)DM Ensemble Vol.5 No.3 2016 November. p.34

オンスイクの単位設定ボタン(注入ボタン)を回すと
1クリック(1目盛)毎に「カチッ」と音がし、1クリック
(1目盛)が5単位に相当します

投与量を間違えないために、音だけで判断せず
必ずダイヤル表示を確認しながら単位数を合わせて
ください



偶数の単位数(例:80)は
数字で表示されます。



奇数の単位数(例:125)は、
偶数数字の間に線(目盛)で示されます。

使い方の詳細は、取扱説明書をご覧ください。

注射のたびに新しい注射針に交換してください

注射針を再使用したり、他の人と共用したりしないでください。

感染症がうつるおそれがあります。

投与量と切り替え方法

注射する単位数は自己判断で変更せず、
必ず主治医の指示に従ってください

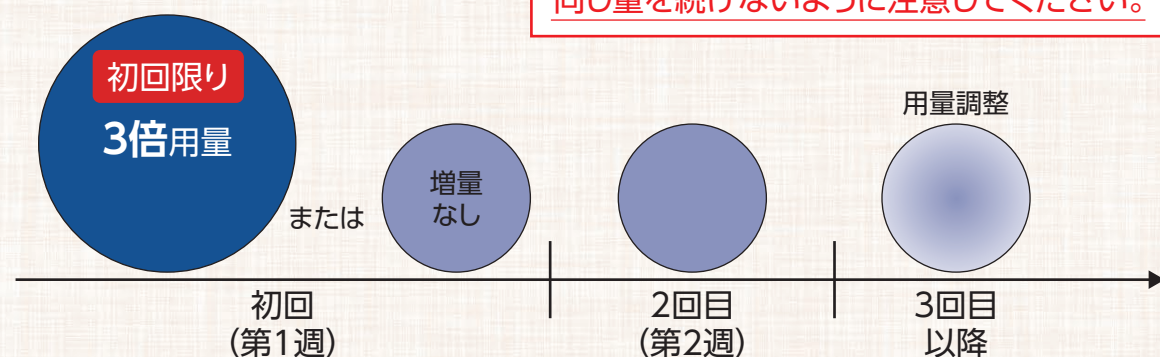
他の週1回投与の糖尿病注射薬（GLP-1受容体作動薬やGIP/GLP-1受容体作動薬）の投与量の設定方法とは異なります。

主治医から指示された注射のタイミングや投与量を守ってください。

誤った使い方をすると、高血糖や低血糖を起こすおそれがあります。

血中インスリン濃度を早く安定させるため
通常、**初回に限り3倍用量**で投与しますが、
患者さんの状態により変更する場合があります

初回に増量した場合は、2回目以降も
同じ量を続けないように注意してください。



※投与量は効果や体調に応じて調整されます。必ず主治医の指示に従ってください。

初回に増量しない場合は一時的に血糖値が上昇する場合があります。

強いのどの渇き、強いだるさ、意識がぼんやりするなど高血糖に関連すると
思われる症状があらわれた場合は、すぐに医療機関に連絡してください。

これらの症状に加え、吐き気、嘔吐、お腹の痛み、息苦しさなどがあらわれた
場合は、ケトアシドーシスの可能性もあるため、ただちに医療機関を受診して
ください。

毎日投与するインスリンから切り替える場合

これまでのインスリンを使った翌日から使用を開始します。

必ず主治医の指示に従ってください。



保管と取り扱い方法

使用開始前、使用開始後ともに冷蔵庫（2～8℃）に保管し、
凍結させないでください

高温や直射日光を避けてください

使用開始後は、112日（16週）以内に使用し、残った場合は廃棄してください。



- 使用後は冷蔵庫にお戻しください。
- 冷蔵庫が使用できない場合、室温（30℃以下）で累積14日間まで保管できます。
- 室温で保管した期間が累積で14日を超えた場合、廃棄してください。
- 子どもの手の届かないところに保管してください。

廃棄方法

使用済みのミリオペンおよび注射針は
医療機関の指示に従って廃棄してください

- 注射後は、毎回注射針を取り外してください。
- 注射針をつけたまま保管すると、液漏れや目詰まり、気泡の原因になります。

低血糖とその対処法

オンスイクの副作用として 低血糖があらわれることがあります

このような症状を感じたら、低血糖の可能性があります。

低血糖の主な症状

- お腹がすく
- 冷汗が出る
- 血の気が引く
- 疲れやすい
- 手足のふるえ
- けいれん
- 意識の低下
- など



低血糖はこのようなときに起こりやすくなります



糖尿病治療薬を医師の指示より多く
投与してしまった／間違って投与した



いつもより激しい運動をした



食事の時間が不規則／食事の量が少ない

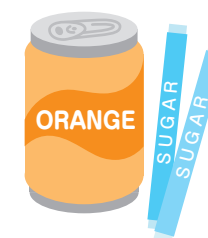


過度のアルコール摂取

低血糖の症状があらわれたら、 すぐに糖分をとってください

糖分のとり方（目安）

- ブドウ糖(5～10g)
- ブドウ糖を含む飲み物(150～200mL):
ジュース、清涼飲料水など
- 砂糖(20g):角砂糖など※



※α-グルコシダーゼ阻害薬[アカルボース、ボグリボース(配合剤を含む)、
ミグリトール]を服用している場合は、必ずブドウ糖をとってください。

症状が良くならない場合や、糖分を口からとることが できない場合には、すぐに医療機関に連絡して処置を 受けてください

オンスイクは作用が長く続くため、低血糖症状の回復が
遅れるおそれがあります。

また、低血糖は症状が回復しても、時間が経ってから
再び起こることがあるので、しばらく注意して様子を見てください。



低血糖に備えるために



ブドウ糖や糖分を含む食品を、
常に持ち歩きましょう。



家族や周りの人にも、低血糖の症状や
対処法を伝えておきましょう。

シックデイについて

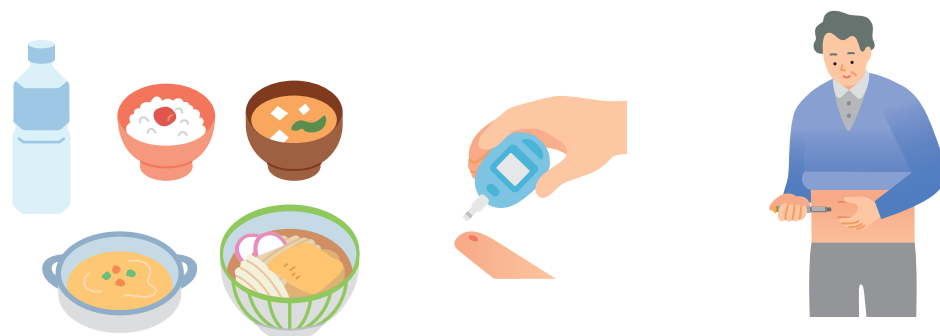
体調が悪いとき（シックデイ）の対応方法について 主治医と相談しておきましょう

発熱や下痢、吐き気などがあったり、食事がとれなかったりする状態を「シックデイ」といいます。

シックデイは血糖値が乱れやすく、急な体調悪化につながる可能性があります。

シックデイになったときは？

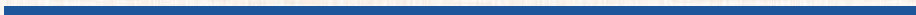
- 安静にして、体をあたたくしましょう。
- こまめに水分をとり、脱水に注意しましょう。
- おかゆやうどんなど、食べやすい炭水化物をとりましょう。
- 可能であれば、こまめに血糖値を測定しましょう。
- 自己判断でオンスイクを中断しないでください。



嘔吐や下痢が止まらず食事がとれないときや発熱が続くときは、早めに医療機関を受診するようにしましょう。

MEMO

MEMO



18 horizontal blue lines for writing.